

都市大 執念で接戦制す

5連覇を狙う「王者」の都市大塩尻が、3セットを終えてセットカウント1-2と窮地に立たされた。「ストリートで抑える気持ちだった」とセンターの堀内玲楠(3年)。

岡田隆安監督が「負けパターンだった」と追いつめられ、動揺してもおかしくない展開

となった。だが、選手たちの表情からは焦りは感じられず、そこから本領を発揮。最後は勝利への執念で勝利、意地のぶつかり合いを制した。

岡田隆安監督が「負けパターンだった」とセンターの加藤菜々子(3年)がいうように、第2、3



【都市大塩尻ー長野日大】第4セット、スパイクを決める都市大塩尻の中島

セッターはサーブレシーブが決まらず、持ち前の攻撃力がそがれた。後がなくなった第4セット。勝因は強化してきたメンタルトレーニングの成果だった。

「気持ちだけだった」

「必ずやってくる」と監督の言葉に、選手の成長が見てとれた。

第1セットは攻撃、守備ともに完璧に近い

内容で、全国ではそれをどこまで継続できるかが鍵になる。チーム最多のアタック得点を挙げたサイドアタッカーの中島優花(3年)は「レシーブ力、アタック力をもっと高めたい」と力を込める。初戦で涙をのんだ前回大会の雪辱を期す。

学校法人 五島育英会